

動物學雑誌 第七拾六號

東京商船學校生徒原田源八郎來訪

七日 大渡、宮島去る

同日 閉場

十セ、メ、底盤の徑十七セ、メ、軀長二十二セ、
メ即チ尋常之茶筒位の大きさと見ば可ならん（前
アーチャースタ

の濶、三百尋「やさ」に附着す）

●三崎土産三幅對 御國の増大と共に動物も大きくなりけん當冬三崎滯在中獲物の大なるもの三つを撰びて左に

左、拂子介 (H. Siebold) (Trix) 海綿軀上端面幅十七セ、メ、に長さ二十セ、メ、軀三、長さは根を除きて二十四セ、メなり先づ山高帽子位の大きさと見ば考へられん (エナ掛々内端四百二十尋)

中、ばんばがに (三崎方言) (Inachus Kaempferi, De Haan) 甲殻の大きさ幅三十セ、メ、長さ三十七セ、メ、第一歩肢の長さ百四十セ、メ、なり先づ普通の銅盤大の甲にて第一歩肢を充分に延はせば一端より他端まで一丈二寸三分と思はゞ宜しからん (場所失念)

右、いうぎんちやく一種 (Adamsia sp.) 口盤の直徑二
オーラルディスク

三崎土產三幅對 「いそぎんちやく」の逸物 「エビ」網

第七卷

七五

●「エビ」網 三崎近傍城が島一ヶ町谷松輪等の人冬期使用す長さ五六間幅三尺許り網目二寸四方位の細長き網なり是横に數ヶ連ぬ夜に入り岩根の邊に沈む端に重りと字標を附し其儘放置し翌朝早々引上ぐるなり目的は名